

## 平成12年度病害虫発生予察注意報第3号

平成12年8月22日  
宮崎県

## 病害虫名 炭疽病

## 作物名 茶

## 1 発生地域 県下全域

## 2 発生量 多

## 3 注意報の根拠

- 1) 7月下旬からの長雨により本病の発生に好適な条件となり、発病が増加した。
- 2) 8月上・中旬に行った巡回調査の結果、発生ほ場率89.5% (平年 60.9%)、1 m<sup>2</sup>当り病数9.84 (平年 4.49)であった。(表1)
- 3) 本県での主要栽培品種は、本病に対し罹病性が高い。

## 4 防除上の注意

- 1) 病原菌は開葉間もない軟らかい新葉にだけしか侵入できないので、新芽の生育期が薬剤散布の適期である。
- 2) 秋期の発生は秋芽の充実を損ない、大切な一番茶に対する被害が大きいうえ、翌年への伝染源にもなるので徹底した防除が必要である。
- 3) 本病は潜伏期間が約20日であるため、発病葉が認められる状況になってからでは防除は困難である。常発園及び多発が予想される園では新芽生育初期から1週間間隔で2～3回の散布を行う。

## 5 その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては、農薬安全使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
- 2) 薬剤等、その他詳細については、「平成12年度病害虫・雑草防除等指導指針」を参照のこと。

表1 炭疽病の発生状況 (8月上・中旬調査)

区分	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	m <sup>2</sup> 当り病葉数
	甚	多	中	少		
本年	0	0	10.5	78.9	89.5	9.84
平年	0	0.5	0	60.4	60.9	4.49
前年	0	5.3	0	78.9	84.2	13.68